

皆さん、おはようございます。本日、筑波大学の主催により「日本留学フェア」をブラジル連邦大学で開催できますことを誠に嬉しく思います。

始めに、このイベントをコーディネートされた筑波大学の皆様、日本から参加いただいた北海道大学、芝浦工業大学、立命館アジア太平洋大学、日本学生支援機構の方々、そして、毎回、日本留学イベントに会場を提供いただいているブラジル連邦大学の皆様に感謝申し上げます。

次に、学生の皆さん。本日は、日本留学フェアに参加いただき、ありがとうございます。日本の大学はレベルの高い研究環境や知的・文化的な刺激をあなた方に提供することができるものと確信しています。本日の説明会において、日本の大学事情や日本における生活の詳細がきっと明らかになると思います。今ここにいらっしゃる皆さんの一人でも多くの方が、日本で素晴らしい留学経験をすることを願っています。

ここで、現在、日本とブラジルの大学レベルの交流を支援する日本政府の主な3つの取組を紹介します。

一つは、「日本の奨学金による留学制度」です。これは、1954年に制度化されたものであり、近年では、毎年約60名のブラジル人学生が日本に留学しています。現在、日本に在籍しているブラジル人留学生数は460人、うち180人が国費留学生です（2014年5月時点）。

二つ目は、「大学間の交流を支援する制度」です。昨年からは、新たに日本の8大学（筑波大学、東京大学、東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学、上智大学、南山大学及び東京農業大学）及びブラジルの9大学（サンパウロ大学、リオ連邦大学、カンピーナス大学、パウリスタ総合大学、リオ州立大学、パラナ連邦大学、サンパウロカトリック大学、ブラジル連邦大学、アマゾン農業大学）を重点的に支援し、交換留学生の拡大、単位の相互認定、カリキュラムの共同開発などを促進していきます。

三つ目は、ブラジル政府の「国境無き科学計画」に関するものです。同計画により日本に留学した学生数は4年間で延べ520人です。日本政府はこの留学生数をさらに拡大することを望んでいます。

このため、この「国境無き科学計画」とも連携しながら、国際交流基金が、日本語学習支援プログラムを通じて、ブラジルの5大学（アマゾン連邦大学、リオ連邦大学、ブラジル連邦大学、パラナ連邦大学、リオグランデドスル連邦大学）で無料の日本語講座を開設するとともに、訪日研修も実施します。

さらに、ブラジルに進出している日本の代表的な多国籍企業13社（三井物産、パナソニック、東芝、ソニー、東洋エンジニアリング、王子ホールディングス、IHI、キリン、トヨタ、三菱商事、三菱重工、三菱電機、三菱東京UFJ銀行）が、国境無き科学計画の留学生をインターンシップとして受け入れています。

これらの取組を通じて、できるだけ多くのブラジル人学生に日本へ留学していただければ幸いです。

最後に本日のイベントの大きな成功を祈念して私の挨拶といたします。ありがとうございました。

(了)